

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 64 2008年6月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



ひっそりと いのちをつなぐ「ヘイケボタル」

保全活動二年次がスタート

自然観察出前講座 石神 良三

夏にはヘイケボタルが飛び、秋には収穫と楽しみ満載の田んぼです。

牛久沼東岸へ流入する根古屋川上流地区の谷津田を中心に生息する「ヘイケボタル」の保全活動二年次がスタートした。

活動の主役は、向台小学校五年生の子ども達だ。昨年、先輩五年生の活動に刺激されてきた子ども達はとても意欲的だ。

五月一日にヘイケボタルの生息環境や生態について学習し、五月七日には田植えを体験した。「田んぼの中には幼虫がいる」という意識での田植えは、保全活動のスタートとしては意義の深いものであった。また、田んぼの周辺の環境を身近に観察することから、極相林である斜面林からの自然水である湧き水の存在に気づいたことも大きな収穫であった。

素足での田植え体験は初めてという子ども達には、多くの生きものとの出会いの場でもあった。アメンボウ・ミズスマシ・タイコウチ・アメリカザリガニ・サワガニ・トウキョウダルマガエル・マルタニシ・モノアラガイ・シオカラトンボ等々。

これらの体験は、今後継続される保全活動を支える大きな力になるだろう。

私たち出前講座としても、子ども達と夢を共有しながら、メンバー丸となって出来る限りの支援をしていきたいと思う。





うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト 活動報告



アヤマメ事業報告

佐藤 輝雄

桜・山吹・藤・つじの花が咲き終わった今、今度は花菖蒲が、私たちの出番とばかり若芽が勢いよく伸びはじめ、一部つぼみもついてきました。池のスイレンの花も咲き始めています。周りの田んぼも田植えが終わわり水とみどりの一面、まことにアヤマ園は豊富な水と自然に囲まれた素晴らしい環境です。

カエル・エビガニ・ドジョウたちも活動をはじめ、メダカも引き込んだ水の流れに勢いよくさかのぼり陽気のよい日は初夏の田園風景です。しかし、雑草も負け

ることなく花菖蒲以上に成長が早く、私たちが作業するものには競争の毎日になりま

す。先日の作業では



スコップの上で威嚇ポーズ 08.5.19

三十センチもある「ウシガエル」が畝の間から飛び出し、私たちに威嚇するしくさも見られました。

ただこれから陽気がよくなるに従って人出も多くなりませんが、特に月曜日の朝は一部の心無い人たちによって、汚されたアヤマ園を目にします。

おびただし花火の残骸、バーベキューの残り物を花菖蒲の畝の間に捨てる人たち。私たちは最初にそれらを片付け、当日に訪れる人たちが気持ちよく園内を散策できるようにします。

昨年、約千㎡の田んぼが拡大され、株分け後今年はじめて花を見ることになりましたが、広々とした素晴らしいアヤマ園になることを願って汗を流してきました。

今、メンバーは十四人がほとんど休むことなく活動しています。今年から隣のつくば市（茎崎）からも新しくメンバーが加わり牛久市のアヤマ園のため力を注いでくれています。

作業の中には、まだ試行錯誤の部分があり反省することも多く、少しずつ学び取り毎年より立派なアヤマ園になることを願って、今日も作業を続けています。

六月には昨年以上に立派な多くの花をつけ多くの観光客が訪れることと思います。

広報紙『さとやま』の愛読の方、今年も是非友達を誘ってアヤマ園にきてください。きつと、こころが和みます。

巨木リサーチ事業報告
渡辺 泰

巨木・古木・希少木リサーチ事業
三年目の活動

本事業はうしく里山の会と牛久市との協働事業として三年計画で、平成十八年四月にスタートしました。樹木調査の部分は本年度が最終年になります。昨年度は社寺境内の樹木調査と街路樹調査を行いました。その成果を三月下旬三日間、資料・写真展およびスライドによる報告会を開き、市民にお知らせしました。来場者が百十三名に及び成功裏に終わることができました。

今年度は四月六日(日) 全員打合せ会を開き、活動計画その他について協議し、活動内容・日程などを具体化したところです。本年度は個人の敷地を中心に校庭・公園などに生育する樹木の調査および街路樹に係る活動を進めます。

樹木調査の調査木は昨年十月から選定に着手し、最終的に所有者・管理者が明確な五十七本に絞りました。その内訳は巨木十



活動計画等の打合せ 08.4.6

種二十五本、古木十四種十六本、希少木十二種十六本です。旧家の屋敷のものが多く、珍しい樹種が幾つか含まれています。主なものをあげてみますと、巨木ではケヤキの十五本を筆頭にサイカチ・ヒマラヤスギ、古木ではオニグルミ・クロガネモチ・ナツグミ・ヒイラギ・マテバシイ・マルバアキグミ・メタセコイア・モクレン、希少木ではタブノキ・テーダマツ・ニッケイ・モミジバズスカケノキ・サカキ・ダイオウシヨウ・タラヨウ・ハゼノキ・ハンカチノキ・コウカリノキがあります。

街路樹関係の活動は昨年度、市所管の街路樹に樹種名のプレートを取付ける基礎調査を実施しました。七十四路線について、延べ五千七百四十五本の街路樹を対象に樹種名・本数・幹周を測定し、全部で二十五樹種に及ぶことを確認しました。今年度は、これらの結果に基づいて二百六十五本の街路樹プレート作成とその取り付け予算が計上されました。その結果、活動内容は前年度と異なり実践的になります。具体的活動は市の予算執行方針が確定してから、適切な対応を図ることにしています。なお、昨年九月から開始した「広報うしく」紙上の「わが街の木」の連載記事は継続することになっていきます。

以上のように街路樹に係る活動が実践的なものになるため、これまでの計測班の下に置いた「街路樹グループ」を「街路樹班」として独立させました。その結果、推進態勢は研修グループを含む総務、巨木班、街路樹班となりました。活動日程は

これまでの進め方を踏襲し、計測・写真撮影・研修活動を一体的に進めることにしています。

なお、当初計画では三年目の今年度は旧牛久城跡林および牛久沼斜面林の樹木を含む植物相の調査を予定していましたが、上記の活動で手いっぱいであり、これらの取組みは困難であることが分かりました。このため活動参加者や関係者と協議し、プロジェクトの延長について検討したいと思っています。また

三年間の総括として調査成績の刊行物作成を目指してききましたので、年度内に、市のご指導のもとに編集委員会を立ち上げ、準備作業に着手したいと考えております。

活動に当たり牛久市建設部緑化推進課による調査樹木所有者に対する協力依頼や予算的支援など事業の円滑な推進に引き続きバックアップしていただいております。改めて感謝申し上げます。



定期活動時の記念撮影 08.4.26



牛久自然観察の森報告 斉藤 孝

牛久自然観察の森 ホタルボランティア募集

今年も自然観察の森園内でゲンジボタルが舞う季節となりました。今年是一般向け鑑賞会を三日間、年度会員制行事「しぜんつくらぶ」向け鑑賞会を一回、同じく年度会員制行事「自然なんでも探検隊」向け鑑賞会を一回の合計五日間鑑賞会を実施いたします。

これらの内、参加者人数の多い一般向け鑑賞会の二日間に関して、当日運営ボランティアを募集いたします。内容は、駐車場の誘導や受付、鑑賞会会場での解説、安全管理等です。事前ボランティア研修会の日時、鑑賞会当日の日は下記のようになります。ボランティアへの応募お待ちしております。

ボランティア研修会

六月十一日水曜日 午後七時～九時

一般向け鑑賞会

(ボランティアの集合は午後六時三〇分)

六月十四日(土) 午後七時三〇分～八時三〇分

六月二十一日(土) 午後七時三〇分～八時三〇分

鑑賞会当日ボランティアに参加するには研修会への参加が必須です。また、ボランティアは二日間のうち一日でも可能です。

ボランティア申込みは六月十日火曜日まで

電話受付

牛久自然観察の森029-874-6600 (担当/渡邊)



結束町みどりの保全区エコアップ 作戦活動報告 斉藤 孝

参加者募集のお知らせ

六月は十四日(第二土曜日)と十五日(第三日曜日)の実施となります。元気な森づくりを行いますよー!

六月十四日(土) 午後一時～三時三〇分

六月十五日(日) 午後一時～三時三〇分

集合場所・時間 いずれもネイチャーセンター1階倉庫前・予約不要(雨天中止/強風時中止)

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物

(長袖、長ズボン)

各種の暑さ対策グッズを持参することをオススメします。

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限ります。

問い合わせ先) 会事務局

(029-874-6600 担当/斉藤)



じゃがいもプロジェクト活動報告 本多 昭子

活動日・四月二十六日 九時～十一時

参加者・九名 (会員三、一般六)

活動内容・除草

三十分程遅れて、二人の子どもさん連れの一家が加わり、このプロジェクトの空気になりました。雑草はまだ幼く、ヨモギ・ヒシバミ・ドクダミが殆どで、根の張りは強くもなっていない。二人の子どもは、お母さんのお手伝いで、葉を摘んだり、運んだりと大活躍です。

じゃがいもの発芽は、ようやく認識できる数センチ程の数株がある程度。こぼれ種芋から発芽した草丈十センチ程に生育しているものには、テントウムシダマシがつきはじめ、葉の裏に地図をかき始めているものもありました。十時過ぎ、一応全面の除草が終わりました。

この後に、竹の子堀体験をしました。一般参加の方には初めてのことです。五歳の子どもは、竹の子堀の最後の一鍬のときに「歯みたい」と表現しました。竹の子の腰のやさしく曲がった姿でした。全くとおっしやる通り。新鮮なときの美味しい食べ方など、いろいろな収穫を得た半日でした。次回は五月十七日。じゃがいもの芽欠きとさつまいもを苗を植えます。その日は男爵・メイクイン・キタアカリ・アンデスレッドの各種の葉っぱの特徴などの見分けができるでしょうか。



里山自然観察隊活動報告
石川 満夫

第一回植物観察会「林地の植物」を見る

五月十日(第二土曜日)今年度第一回植物観察会です。参加者は八名。観察場所は、下根町の雑木林と牛久自然観察の森内コジユケイの林です。当日は朝から雨模様でしたが、活動中は曇り空となりました。九時過ぎ牛久自然観察の森駐車場を車二台に分乗して出発。下根町の雑木林の中で渡辺泰さん指導の下、植物観察の活動開始となりました。まず、雑木林の中で一際目立つ花を付けた植物に出会いました。一つは、キンランです。花卉



キンラン 08.5.10
下根ヶ丘団地北東
雑木林内

三枚、ガク片三枚が黄金色に輝いています。次は、ギンランです。白銀色の小さな花が目につきます。更にササバギンランも確認、一度に三種類のランを観察することができ印象に残りました。フタリシズカが白い小さな花をつけ、葉一枚が対生し段々に付けています。ハバヤマボクチが自生しています。牛久版レッドデータブックで「絶滅危惧1B類」

に区分されている貴重な種類です。枝葉の上に白い綿状の花を見付けました。サワフタギです。やがて瑠璃色の実となるでしょう。コナラ、サンショウの実生が沢山あります。ガマズミもあります。小さい黄色い花を付け、葉が馬の蹄に似ているウマノアシガタが有りました。コモミが黄色い小さな花を一对にして咲いています。またまた貴重な確認をしました。イチヤクソウです。牛久では珍しく牛久版レッドデータブックで「絶滅危惧 類」。

下根町観察の後、次の観察場所へ移動。牛久自然観察の森のコジユケイの林です。観察場所は、東側五十メートル幅の範囲としました。まず、サワフタギの花が満開でした。スミレを何種類も確認しました。花は終わり、葉が大きく成長したり、茎を長く立ち上げたり、果実を付けていたり、果実が弾けて種子が見えていたりといろいろな状態で生育しています。アマトコロです。茎はやや弓のようになり曲がり白色で先が緑色の筒状の花を一行に下向きに六個程つけています。葉のない時代に血を止めるのに使ったといつヤマチドメが有りました。

今回の観察会では下根町で七十種、コジユケイの林で九十種近くの樹木・野草を確認し、それぞれの種類と発生量を記録しました。

次回活動は六月十四日(土)九時~十二時三十分。
第二回植物ガイド・結束地区「初夏の植物」。
集合場所と時刻 観察の森駐車場、午前九時
申込み・問合せ先 029-873-6246 (平塚)

今月の古木・希少木
No.14 ナツグミ

グミ科の落葉小高木。グミのなかで果実が大きく、食べて美味しい種類です。グミ類は葉・花・果実に白色から褐色の鱗片状や星状の毛があり、枝は刺になっているのが特徴です。牛久市内にはアキグミやナツグミがありますが、ナツグミは写真のように細長い果柄が長さ1.5cmほどに伸び、だ円形の果実を垂らします。観察の森の観察舎入口のオオグミはナツグミの変種です。「茨城植物誌」には県内ではアキグミの方が普通で、ナツグミはやや少ないとされていますが、牛久市ではナツグミの方が多く、雑木林や林縁などに生えています。そして旧家の屋敷などに古木が見られます。昔は子供たちがよく食べたものです。観察の森前の道路の植込みなどで今、果実をつけているのは庭木のナワシログミです。なお筑波山などにあるツルグミは牛久市では「絶滅危惧 類」になっています。(渡辺泰)



果実 05.6.12

前号「No.13 チャンチン」の記事の訂正：得月院以外のチャンチンの栽培箇所を確認しましたので、「牛久市では得月院のものだけが唯一です。」を削除ください。



雑木林応援隊活動報告
雨宮 廣之

五月の炭焼き

炭焼きは冬場の作業です。当然、夏場は暑くてやる気になりません。五月の連休を利用しての炭焼きは、今年の冬のシーズン前最後の炭焼きとなります。長期間、炭窯の中を空にしておくと、湿気がたまってしまい窯に悪い影響を与えます。

そこで、炭焼き後に、炭を出さずに十月のシーズンまで、そのままにしておくわけですが、今回、窯を開けてみて、ガツカリしました。実は、一月と三月に行った炭焼きで、二回とも失敗してしまいました。一月に竹炭を焼いて、三月に窯を開けましたが、半分以上が灰になっていました。竹炭を全て出して分かったのですが、窯の天井に小さな穴が開いていてそこから空気が入っていたため、灰になるまで燃えてしまった事が原因でした。

そこで窯を補修して、大丈夫と想着って挑んだのが三月の木炭でした。恥ずかしいのです



が写真をつけました。ご覧の通り、生焼けです。二回連続の失敗。

最近では非常に珍しい事です。これも木炭を窯から出して分かったのは、偶然に煙突サイズにぴったりの木がはまっていたのが見つかりました。木は炭になる過程で縮みますが、炭になってぴたりはまっていたので、途中で入り込んだとしか考えられませんが、もうひとつ考えられるのは、最近、火入れの前日には、炭出しと炭材詰めを済ましておいて、炭焼きの初日、九時には火を入れるように段取りを変えたことです。観察の森では、夜間に炭焼きを続ける訳には行きませんので、温度を下げない為に、夜間に大きな薪を置いて、回りを囲い帰ります。それでも結構温度が下がってしまいますので、どうも温度変化のサイクルが変わったため、勝手が違ったのが原因かも知れませんが、この半生の炭は、再度窯に入れました。今度は完全な炭となっています。炭焼きの間は、結構他の作業も出来るので、ユジユケイの林と、梅林の下草刈りを予定していましたが、



因かも知れませんが、再度窯に入れました。今度は完全な炭となっています。炭焼きの間は、結構他の作業も出来るので、ユジユケイの林と、梅林の下草刈りを予定していましたが、

結局ずっと雨でした。

外の作業が出来ないので、壊れかけていた窯の土留めの修理を行いました。檜を使って作り直したので、かなり長く持つと思っています。炭小屋の前を通るときは、覗いて行って下さい。もしかしたら、檜の良い匂いがするかも……。



南部の自然を守る会お知らせ

阿部 幸浩

地元の方々と共同作業を実施します。是非ご参加ください。

日時：七月六日(日) 八時～十二時
内容：水田、農道周りの草刈り作業
集合：成井公会堂八時前には集合願います
持ち物：汚れてもよい服装(長袖・手袋)
その他：お弁当とお茶を用意します。



農道の草刈り作業 08.03.02

庚申塔(庚申塚)

コラム
村の生活

牛久周辺を歩いてみると、庚申塔をよく見かけます。道ばたや、集会所の片隅でひっそりと余生を送っているようにも見えます。この庚申塔を守る人たちも次々と世交代し、代々受け継がれてきた庚申塔の世話は行われなくなってきました。行われていても儀礼的に行われているのが実情ではない

か思われます。そして、通りすがりの人たちも何も気を止めずに通り過ぎ、路傍の石仏となっ

ます。この庚申塔、昔は村の生活にとって大変重要な位置づけを持っていました。現在のように医学の発達もなく、地域の安全も保証されていない時代には神や仏にすがりしかなかったのです。

庚申信仰は室町時代中期に僧侶が「庚申縁起」といって道教(中国の伝統宗教)の思想に仏教思想をアレンジしたものをつくりました。これが、後に日本の庚申信仰の基礎となりました。

「道教」とは、人体には三匹の虫(三尸・さんし)が宿っているという。この虫は、六十日ごとにくる庚申(かのえさる)の日の夜に、寝入った人体を抜け出し、天帝に宿主の罪業を報告する。北極星の神格化といわれる天帝は、報告に基づいて人間の寿命を差し引く。宿主が死ねば、三尸は鬼になれる。だから漏れなく罪を報告して、宿主の早死を望む。といつちよと恐ろしいようですが、おらかな日本人はこれを日本式にアレンジしまし

た。

それは、庚申の夜に宿主が寝なければ、三尸は人体を抜け出せません。そこで人々は、庚申の晩は当番の家に集まり、おしゃべりや勤行で朝を迎えるという行事が行われるようになりました。この行事を庶民は「庚申待ち」と呼びました。三尸の報告を阻止することで、治病・長寿を得るといって趣旨です。

庚申待ちは庶民信仰でありながら、娯楽の少なかつた当時の人々にとって大きな楽しみとなっていました。ただ、庶民信仰とはいえず、あくまでも信仰ですから、個人個人が身勝手なことは慎むようにと、庚申の夜は男女同衾は禁忌事項とされていました。これを犯して子どもが出来れば、子どもはどろぼうになるとされ、個人プレーは慎み、当番の家で皆顔を合わせたと言っています。(坂 弘毅)



結束町の青面金剛型庚申塔 05.12.23
結束町の庚申塔は結束集会所脇にあり常にきちんと管理されていました。

平成二〇年度通常総会報告

第四回通常総会が、五月十八日十時～十二時牛久自然観察の森で開催され無事終了しました。会員数九十三人、出席二十三人、委任状四十六人で総会は成立。

審議事項

第一号議案は、各プロジェクトの活動報告について引き続き十九年度決算報告・監査結果について。

第二号議案は平成二十年度事業計画と方針について。また会計担当から収支予算について。

第三号議案は理事会で決定した平成二十一年度からの会費値上げに関する説明に関して。

第四号議案は平成二十年度の役員改選について。いずれも採決で、全員一致で承認されました。

各審議には会員の拡大や一般市民への広報活動等について建設的な意見が多く出されました。

総会終了後、臨時理事会が開かれ、新役員の互選により代表理事、副代表理事が決定しました。

(理事)

阿部 幸浩(副代表)

石神 良三

坂 弘毅(代表)

斎藤 孝(副代表)

佐藤 輝雄

渡辺 泰

(監事)

増田 勝彦

小林 久

午後には「結束と江戸の接点を検証する」というテーマで坂 弘毅氏による記念講演が行われました。

6月の里山カレンダー

* 活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
1 巨木リサーチ(受) 9:30 市役所玄関	2 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	3 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	4	5 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	6	7 じゃがいも 9:00 梅林畑
8 雑木林応援隊 9:00 ムジナ	9 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	10 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	11	12 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	13	14 里山自然観察隊 9:00 森P エコアップ作戦 1:00 NC 会報原稿×切り
15 運営委員会 9:00NC 理事会 11:00NC エコアップ 1:00NC	16 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	17 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	18	19 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	20	21 じゃがいも 9:00 梅林畑
22 雑木林応援隊 9:00 炭小屋	23 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	24 休園日 雑木林応援隊(畑) 9:30 畑	25 会報発送 1:00NC	26 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園	27	28 巨木リサーチ(受) 8:30 得月院P
29 さとやまセミナー 10:00NC	30 休園日 アヤマ園(受) 8:00 アヤマ園					

凡例 森:観察の森 NC:ネイチャーセンター P:駐車場 炭小屋:観察の森梅林奥の炭小屋 畑:観察の森梅林奥の畑
コジュケイ:観察の森コジュケイの林 観察舎畑:観察の森観察舎前の畑 ムジナ:結束町の雑木林 市役所:市役所本庁舎
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園 (受):受託事業 休園日:観察の森休園日

広報委員会からのお知らせ

次号7月号の印刷発送は6月25日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしく願いいたします。

編集後記

森の木々も野草も、そして田んぼも緑一色になって眼も心も安らぐ一番いい季節を迎えました。昔は農家の近所どうしがお互いに助け合い、多いときには十人くらいが一緒になって、一日も三日もかかって苗を植え込んだものですが、今は機械で一日で終わってしまつ時代です。

第四回通常総会も皆さんのご協力が無事終了し、いよいよ新年度の活動に入りました。

茨城県では「アツミゲシ」が見つかってニュース等で報道されました。このケシは地中海沿岸の帰化植物で、日本では最初に愛知県渥美半島で見つかったため「アツミゲシ」の名前がついたそうです。栽培禁止のケシの一番の見分け方は、葉の付け根が茎を巻き込むような形でついているのが特徴です。その他に「ボタンゲシ」「ハカマオニゲシ」があり何れも、「あへん法」「麻薬及び向精神薬取締法」によって栽培が禁止されているので注意しなければなりません。

今年度の「さとやま」の編集委員になりました。みなさんに楽しく読んで貰える広報紙になるよう努力していきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(記 佐藤 輝雄)

会報さとやま 2008年6月号(発行・NPO法人うしく里山の会)

事務局 300-1212 茨城県牛久市結束町489-1(牛久自然観察の森内) 電話 029-874-6600